

戸隠スキー教室



畝目襄治

文字どおり、戸を立てて隠すようにそは立つ戸隠連峰、東には飯縄山、北には高妻・乙妻・黒姫山、そして妙高山、さらにはるか西方には白馬岳をはじめとする北アルプス北部の連山。長野市より、バードラインにて一時間余り北西へ入ったところ、そこが、海拔約一千メートルの戸隠高原である。

同志社中学校の「戸隠スキー教室」は、昨年十二月二十一日～二十九日を四泊五日ずつ二つの期に分けて、三年生の希望参加者を約六十名ずつ、それに引率教員八名、現地指導員二名、看護婦一名、先輩学生三名という

構成で、「シャレー戸隠」を宿舍として行われた。

戸隠高原は、山岳信仰の戸隠神社と、この神官たちの家々で構成された宗教集落があり、夏は高原の涼気と小鳥のさえずりとで古くより知られた地である。

「シャレー戸隠」、それは三年前に建てられ昨年十二月より同志社共済組合協定の宿舍ともなった。昭和二十三年旧制中学五年卒業、翌二十四年新制高等学校第一回卒業の同志社の先輩が、社長、営業部長等をしておられる。それは、戸隠神社中社のやや奥、越水原

の一角にあり、そこは、怪無山の西山麓である。本館一棟のほか、会社契約のヒュッテなど別棟が七棟ほど建っている。

スキー場は、怪無山の北斜面に村宮ゲレンデ、南斜面に国宮ゲレンデがあり、「シャレー戸隠」は、そのほぼ中間地点にあり、両ゲレンデには、それぞれ徒歩で十～十数分の距離である。全体で十基のリフトがあり、最も奥は海拔一千七百五十メートルの瑠璃山の山頂に至っている。その山頂から怪無山の山麓までは連続して変化に富んだダウンスリコースが楽しめる。しかし、残念ながら、今回は積雪量不足で、奥の方に通ずるリフトは、ほとんどが運休であった。

今冬は、スキーシーズンが一月ほど遅れたそうであり、年末に至っても積雪量が六十センチ前後しか無かった。このため、いきおいスキーヤーたちは山麓北側の村宮ゲレンデに殺到し、各団体は練習に適したバーンを確保するのがたいへんな苦勞であった。特に二期においては、年末休暇の時期でもあり、おまけに週末に際していたため、昼食場所の食堂も含めて、混雑をきわめた。

レッスンは中、三日間、午前・午後約二時

間ずつ、八つのグレード別の班に分かれて行われた。本校教員を半数含めた八名の指導者が七、八名ほどの生徒を受け持ち、その他の教員等は、パトロールや、生徒にまじってレッスンに参加した。教える方も教わる方もそれぞれ熱心にお互いに励まし合い、いたわり合った。他の団体の指導者が生徒を罵



ゲレンデにて

倒するがときレッスン風景も臨見された中に、それは実に同志社らしい和気の漂ったものであった。最初のころは、慣れない貸しスキーと靴の調節に大わらわで、生徒のそれはずれるたびにその面倒を見てやる指導者等の姿は、実に涙ぐましい限りであった。

さて、「シャレー戸隠」での生活について話を移そう。本館十七室をぜんぶ借り切つて、それぞれ部屋の広さに応じて三名、七名ずつに分かれての宿舍生活であった。朝起きてより、晩寝るまで、それはスキーの宿舍としては申し分のないほど快適で、設備もよく、何よりも美的であった。それは、物質的な意味ばかりでなく、多分に精神的な面もあったからであらう。

食事については、最初の晩の鍋料理もよかったが、ほかはすべて新しい試みとしてのバイキング形式で、質量ともに申し分のないものであった。もっとも、ごく一部の生徒の中には不慣れなこの形式にとまどっている姿も見うけられないこともなかったが……。

特筆すべきは、両期それぞれ持たれたクリスマス会の集いであらう。ガラス張りの食堂の外は、一面の白い世界。テラスには、イルミ

ネーションのついた大きなクリスマス・ツリーが据えられ、中では電灯を消してろうそくの光だけのクリスマス・キャンドルライト・サービス。クリスマス・カロールが声高らかに流れ、従業員の人も、別棟に宿泊している数人の一般客も心一つに集うすばらしいホワイ・ト・クリスマスであった。また、礼拝の後、「シャレー戸隠」の同志社の先輩からデコレーションケーキや飲物等のすばらしいクリスマス・プレゼントをめでいめにいただいたことはなんとありがたかったことであらう。

今回のスキー教室は、雪不足と、もう一つ流感に悩まされはしたけれど、それらを補つて余りある充実感、満足感を生徒たちに与えたことは、後に提出されたアンケートや感想文からじゅうぶんにうかがい得る。そして、その要因は、何といっても、同志社らしい先輩と後輩、教師と生徒、生徒と生徒のきずな・交流が豊かに、暖かい血のように通い合ったからこそであらう。純白の戸隠の山並みを今一度懐に浮かべながら、そのことをしみじみと思いみるしだいである。

(中学校教諭・國語)